



学校だより 新潟市立江南小学校

令和5年6月26日

江南の子

令和5年度
第4号

シン修学旅行

校 長 藤塚 静治

「停留所で15分ほど待っていますが、バスがまだやってきません」6年生会津若松修学旅行2日目に行われた「班別行動」（小グループで会津若松市街を巡る活動です。昼食も含めて、どこを訪ねるのか学校で事前に計画して臨みます）において、ある班から相談の電話でした。困ったときには付近を担当している先生や街にいる市民の方に相談すること、あるいは各班に配られた携帯電話で本部へ連絡をすることになっていました。バスとは、市街を1周する巡回バスのことです。定時運行をしているので、各班は時刻表を確認しながら移動の計画を立てていました。すぐに、バスの運行会社に確認をすると、その時点で約30分遅れているとの情報を得ました。雨模様の中、利用者が多かったことから、巡回バスは遅れていたのです。得られた情報は、そのまま問い合わせがあった班に伝えました。他に、12の班が活動を展開しています。どの班も、何らかの困難さに直面しているのかもしれない。本部ではそんな心配が膨らんでいました。



修学旅行で会津若松を訪れるのは、私自身、小学校6年生以来になります。「当時の修学旅行」はどのようなものであったのか、改めて小学校の卒業アルバムから思い出すことにしました。1日目は鶴ヶ城、磐梯山、五色沼、そして宿泊先、2日目が宿泊先から野口記念館、飯盛山、武家屋敷の行程で、見学が主でした。記憶していることは、野口英世の歌と白虎隊の歌を聞いたこと、飯盛山で白虎隊の踊りを見たこと、お土産に白虎刀を買ったこと（帰宅後に妹を泣かせて、親に叱られました）、そして宿泊先で（学年全体は5学級でしたがそのうちの）男子2学級分40人が一部屋で寝泊まりしたことです。

「現在の修学旅行」は変わりました。まず、体験活動が多く取り入れられました。6年生の振り返り作文の中には、体験した様々な活動があげられ、どれも楽しかったと述べていました。さらに、「班別行動」が加わりました。当校が修学旅行の実施先を会津若松に切り替えたのは、学習指導要領の平成29年度改訂を踏まえてのことです。班別行動を実施することが、これからの社会を生き抜くために必要な力を育成するよい機会になると捉えたのです。

修学旅行を終え、6年生全員の振り返り作文を読んだところ、班別行動について触れた記述には**話し合い・声を掛け合い・励まし合い・助け合い・譲り合い・教え合い・思いやり・協力・みんなで・おかげで・楽しい・うれしい**、といった言葉が多く用いられていました。まさに、今年度の当校教育ビジョンにて示した育みたい資質・能力「認め合い、かかわる力」「進んで励み、やり抜く力」を6年生が自ら発揮し、喜びや自信につなげることができたのです。

冒頭に述べた班は、計画した全ての箇所へ行くために、各箇所の滞在時間を短くするという変更を加えることで、集合時間に笑顔で帰着することができました。困難さがあったものの、力を合わせてやり遂げたのです。集合場所に次々と到着するどの班も、計画変更を前向きに捉え、笑顔で報告してきました。膨らんでいた心配は、いつの間にか雨雲とともに消え、最後は天気も気持ちも晴れ晴れとした修学旅行となりました。